

# 1. 評価結果概要表

作成日 2008年6月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3670101777
法人名	医療法人 リバーサイド
事業所名	グランスウィートマリー
所在地	徳島県徳島市川内町富久102-2 (電話) 088-666-3810

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年6月26日

## 【情報提供票より】(平成20年6月12日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 1月 5日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 11人, 非常勤 3人, 常勤換算 Aユニット 6.6人、Bユニット 7.4人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	— 円	昼食 — 円
	夕食	— 円	おやつ — 円
	または1日当たり	1,100 円	

### (4) 利用者の概要(6月12日現在)

利用者人数	15 名	男性 6 名	女性 9 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	3 名
年齢	平均 77 歳	最低 58 歳	最高 87 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	リバーサイト のぞみ病院
---------	--------------

徳島県 グループホームグランスウィートマリー 1

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は吉野川河口に近いのどかな自然環境に恵まれた場所にある。周囲は田園地帯で民家は少ないが、自然環境を活かした暮らしの中に季節感を取り入れている。利用者の希望を最優先した外出支援や併設する事業所の利用者との交流など、温かみのある介護に取り組んでいる。また定期的に家族会を開き、家族からの要望や意見等を前向きに受け止め、運営上の課題解決やサービスの改善に活かしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題であった「評価の意義の理解と活用、金銭管理状況の家族等への報告、職員の異動による影響への配慮、鍵をかけない工夫、災害対策、居心地のよい共用空間づくり」については改善されている。「職員を育てる取り組み」については、認知症実践者研修の受講や事業所内での勉強会等が行われているが計画的でない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>年1回の評価を全職員で計画的・継続的に取り組んでいる。評価を事業所のサービスの質の向上に生かすために、内部研修や勉強会などで全職員がガイドブックに記載されている着眼点などを参考にして、日々の支援や改善に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は家族、民生委員、地域包括支援センター職員、行政職員、事業所職員等で構成され、2ヶ月毎に開催されている。事業所からは活動状況や外部評価結果等が報告され、参加者からは防災ボランティアへの参画計画や地域への貢献策等の意見、要望等が出されるなど積極的に意見交換されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会を3ヶ月に1回開催し、事業所の運営に関する意見等を聞いている。要望等への対応策や改善点などは会議録とともに文書で家族に送付し、それ以外の苦情等についても全て文書で回答されている。また、「マリー通信」により利用者一人ひとりの生活状況なども家族へ報告されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所周辺に広がる田園地帯へ農作業に来る方達と馴染みの関係ができ、交流が図られている。また地域防災ボランティアへの参画を計画するなど、地域での貢献策や認知度向上に積極的に取り組んでいる。</p>

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で利用者本位の生活を指すという考え方を含んだ理念が、パンフレットや家族への案内文等に記載されている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員と利用者、利用者同士、職員同士のコミュニケーションと触れ合いを大切にして日常的な支援の見直しや取り組みが行われている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所周辺に広がる田園へ農作業に来る方達と馴染みの関係ができ、交流が図られている。また地域防災ボランティアへの参画を計画するなど、地域での貢献策や認知度向上に積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年1回の評価を全職員で計画的・継続的に取り組み、事業所のサービスの質の向上に活かすために、内部研修や勉強会などで全職員がガイドブックに記載されている着眼点などを参考にして、日々の支援や改善に向けて取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族、民生委員、地域包括支援センター職員、行政職員、事業所職員等で構成され、2ヶ月毎に開催されている。事業所からは活動状況や外部評価結果等が報告され、参加者からは防災ボランティアへの参画計画や地域への貢献策等の意見、要望等が出されるなど積極的に意見交換されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の状況報告や運営に関する相談などが行われ、情報収集や情報提供などの連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状態の変化等については随時電話や面会時に報告するとともに、ホーム全体の便り(マリー通信)や利用者の日頃の暮らしぶりの報告に写真を添えて、定期的に郵送している。金銭管理の記録も定期的に報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を3ヶ月に1回開催し、事業所の運営に関する意見等を聞いている。要望等への対応策や改善点などは会議録とともに文書で家族に送付し、それ以外の苦情等についても全て文書で回答されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の雇用安定に努め基本的に異動は行わず、馴染みの関係が継続できるよう配慮している。やむを得ず離職したときの新人採用時には、職員同士のサポートによって利用者へ影響が及ばないよう対応されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修の受講や事業所内での勉強会等が行われている。しかし外部研修案内情報等が十分活用されていないため、計画的な受講には至っていない。	○	職員の質の向上のためにも、外部の研修にも積極的・計画的に参加できるような取り組みが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は一部職員による他事業所の見学にとどまっている。	○	同業者と交流する機会をつくり、勉強会や連携を図りサービスの質の向上に向けて取り組むことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して納得した上でサービスが利用できるように、事前に家族と一緒にホームを見学してもらったり、体験入居や関連在宅サービスの利用などで、ホーム職員と馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員がともに洗濯物をたたんだり、調理の下準備をしたりと、自発的に行う日常生活上の行為は見守りの姿勢を保ち、利用者とのコミュニケーションをとりながら協働の気持ちで支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりのなかで、外出や外食先などの希望を聞き取っている。思いを表せない利用者には言葉や表情、態度から意向を把握し、本人本位となるよう検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意向を尊重しながら、職員のアイデアなどを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しされている。利用者の状況に変化が生じた場合は随時見直しがされ、家族のサインもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、利用者の負担となる受診の回避や早期退院の受け入れなどが支援されている。また地域高齢者のニーズに対応し、ショートステイの受け入れも可能となっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族の希望する医療機関に受診できるよう配慮し、通院時には情報提供書を用意するなど適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に重度化した場合や終末期のあり方について、見取り介護指針を示して説明を行い、個別の話し合いを行い関係者間で統一した対応ができるよう支援している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室に入るときは必ずノックをして許可を得るなど、職員の言葉かけや対応には利用者の誇りやプライバシーへの配慮が見られる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自分のペースで生活できるよう安全に配慮しながら、自由に過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いを把握して献立に反映させるなど、楽しく食事ができるよう配慮している。食事中も急かさず、利用者のペースで食べられるよう様子を見ながら介助している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望時や失禁時、汗をかいた場合など必要に応じた入浴が可能であるが、入浴日は週3回に設定されている。	○	曜日や時間帯などは一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるよう柔軟に対応することが望まれる。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分で洗濯したり食事の準備や調理など、利用者一人ひとりの能力や力量に応じて役割を持ってもらえるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換を兼ねた買い物や屋外での体操、散歩など利用者の希望にそって支援されている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は9時から18時まで鍵はかけられていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、年2回避難訓練や消火訓練が行われている。また地震・災害時のマニュアルも作成され、運営推進会議の席上でも対応方法が協議・検討されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日記録し、把握している。また献立は関連施設の栄養士が作成し、利用者の摂取状況に応じてキザミ食やおにぎりにする等の対応を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内は明るく、会話やテレビの音も大きすぎず、換気もよく行われている。玄関周りには季節の草花が飾られ、壁面には七夕などの飾りつけなどにより季節感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の生活スタイルや趣味のものなどが持ち込まれている居室があり、その人の居心地のよさに配慮した居室づくりが工夫されている。		